

# 第43期第2四半期連結累計期間 決算説明資料

(2008年4月1日 ~ 2008年9月30日)

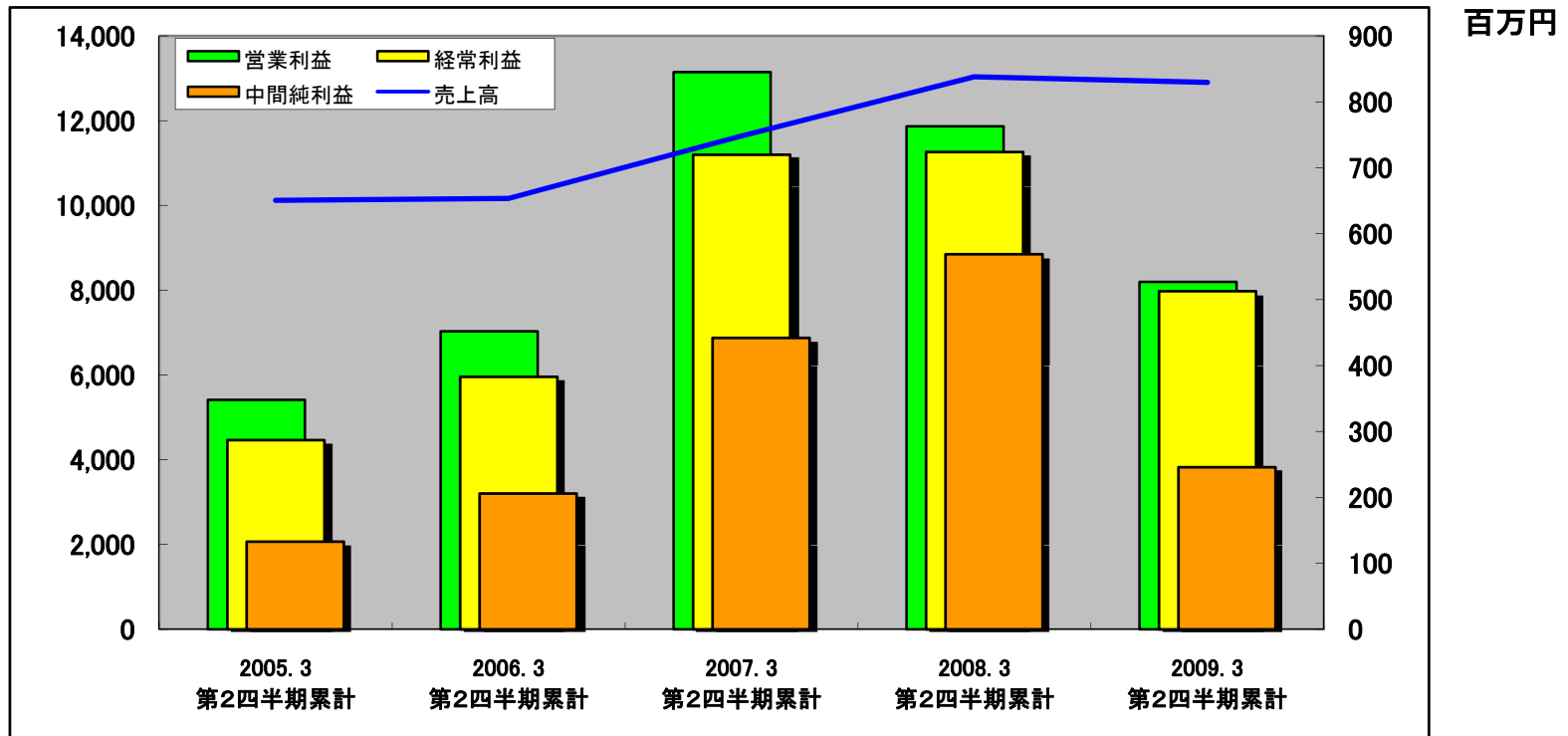
株式会社 **工ノモト**

- 【会社名】 株式会社 **エノモト**
- 【英訳名】 ENOMOTO Co.,Ltd.
- 【コード番号】 6928 **JASDAQ**
- 【URL】 <http://www.enomoto.co.jp/>
- 【代表者】 代表取締役社長 榎本 正昭
- 【問合せ先】 専務取締役 管理本部長 山崎 宏行
- 【E-Mail】 [ir@enomoto.co.jp](mailto:ir@enomoto.co.jp)
- 【本社所在地】 山梨県上野原市上野原8154-19
- 【電話番号】 0554(62)5111(代表)



第2四半期連結累計  
期間のご報告

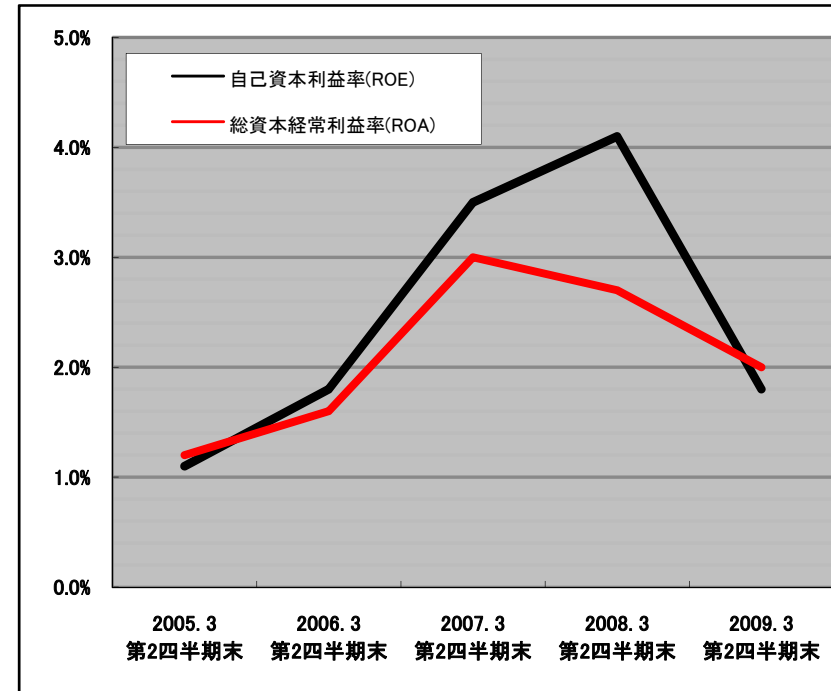
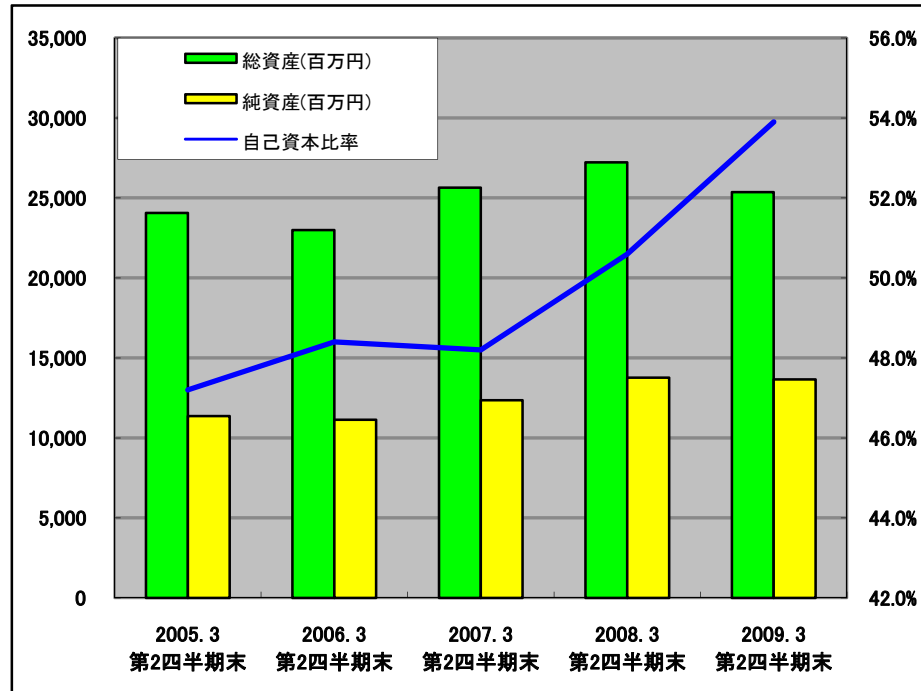
## ■ 連結業績の推移



	2007. 3 第2四半期累計	2008. 3 第2四半期累計	2009. 3 第2四半期累計	前期比	2007. 3期末	2008. 3期末
売上高	11,640	13,036	12,903	1.0%減	24,874	27,851
営業利益	845	763	527	30.9%減	1,755	1,724
営業利益率	7.3%	5.9%	4.1%	1.8P減	7.1%	6.2%
経常利益	720	724	513	29.1%減	1,503	1,577
経常利益率	6.2%	5.6%	4.6%	1.0P減	6.1%	5.7%
当期純利益	442	569	246	56.8%減	1,003	1,085
当期純利益率	3.8%	4.4%	1.7%	2.7P減	4.0%	3.9%

# ■ 財政状態

百万円



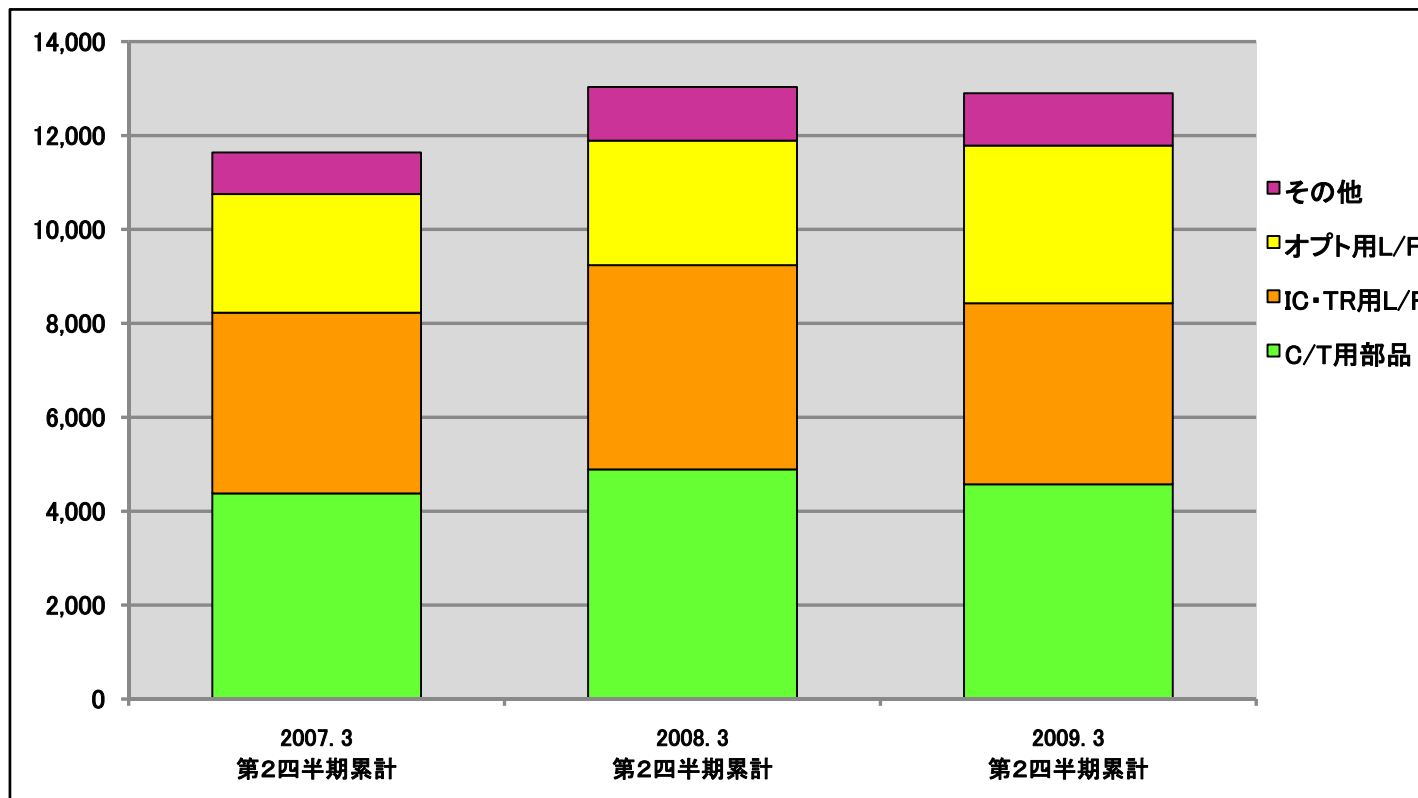
	2007. 3 第2四半期末	2008. 3 第2四半期末	2009. 3 第2四半期末	2007. 3期末	2008. 3期末
総資産	25,646	27,224	25,364	26,044	26,661
純資産	12,362	13,772	13,660	13,083	13,816
自己資本比率	48.2%	50.6%	53.9%	50.2%	51.8%
自己資本利益率(ROE)	3.5%	4.1%	1.8%	8.0%	8.1%
総資本経常利益率(ROA)	3.0%	2.7%	2.0%	5.9%	6.0%

当第2四半期連結累計期間におけるわが国の経済は、世界的な金融システムへの不安及び景気後退懸念の拡大を背景とし、輸出の伸び悩みや企業の設備投資が抑制されてきたことに加え、原油・原材料の高騰による物価上昇の影響を受け個人消費が停滞する等、景気悪化のテンポが夏以降急速に進んで参りました。

当社グループが属する電子部品業界におきましては、これまで拡大基調で順調に推移しておりました携帯電話の成長鈍化や自動車需要の低迷の影響を受け、市場は調整局面の様相を呈して参りました。

このような状況のもとで、当社グループは、鍍金ラインの量産体制の確立や品質の更なる向上を通じて、生産性の向上及び製造原価の低減に努めて参りましたが、主力製品であり、今期大幅な売上増を見込んでおりました携帯電話向けのマイクロピッチコネクタや、車載向けの表面実装(SMD)タイプのLED用部品の受注が第2四半期以降急激に減退することとなり、その結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は129億3百万円(前年同期比1.0%減)となりました。また、営業利益は5億2千7百万円(同30.9%減)、経常利益は5億1千3百万円(同29.1%減)、四半期純利益は2億4千6百万円(同56.8%減)となりました。

■製品群別業績(売上高)



	2007. 3 第2四半期累計	2008. 3 第2四半期累計	2009. 3 第2四半期累計	前期比
IC・TR用リードフレーム	3,850	4,350	3,858	11.3%減
オプト用リードフレーム	2,526	2,655	3,356	26.4%増
コネクタ用部品	4,379	4,889	4,572	6.5%減
その他	887	1,140	1,116	2.1%減
合計	11,640	13,036	12,903	1.0%減

### ① IC・トランジスタ用リードフレーム

当製品群は、車載向け、民生用機器向けが主なものであります。需要は新興国向けを中心に比較的堅調に推移しておりますが、世界的な景気減速懸念の影響から一部の顧客から生産調整及びコストダウン要請等の動きが広がりはじめております。当製品群の売上高は38億5千8百万円（前年同期比11.3%減）となりました。

### ② オプト用リードフレーム

当製品群は、LED用部品及びレーザー用部品が主なものであります。環境意識の高まりや原油価格の高騰により低消費電力のLEDの需要が高まっております。当社におきましても主力製品として位置付け積極的な展開を進めて参りました。前期後半から第1四半期にかけて、順調に推移して参りましたが、第2四半期に入り、表面実装タイプの需要が軟調になる等、景気後退懸念の影響が見えて参りました。当製品群の売上高は33億5千6百万円（同26.4%増）となりました。

### ③ コネクタ用部品

当製品群は、携帯電話向け、デジタル家電向けが主なものであります。新興国を中心にローエンドの携帯電話端末の需要は拡大を続けておりますが、欧米の景気低迷を背景として同地域を中心に多機能タイプの携帯電話の販売が伸び悩み、その影響を受けマイクロピッチコネクタ用部品の受注は低位で推移しております。当製品群の売上高は45億7千2百万円（同6.5%減）となりました。

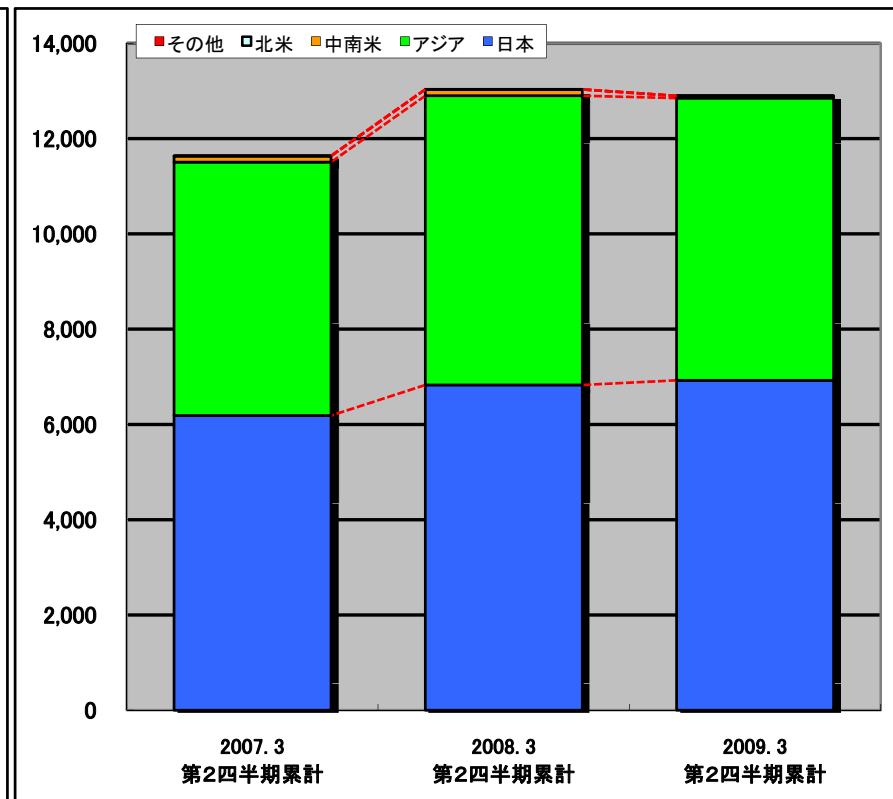
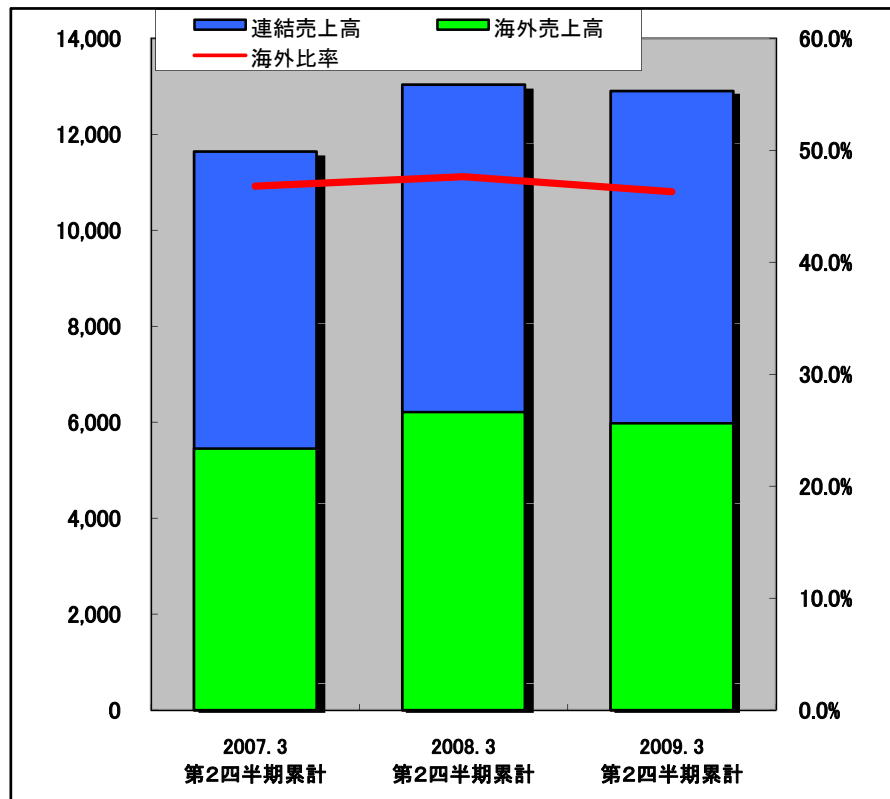
### ④ その他

その他の製品群としては、リレー用部品が主なものであります。当製品群の売上高は11億1千6百万円（同2.1%減）となりました。



## ■地域別売上高

百万円



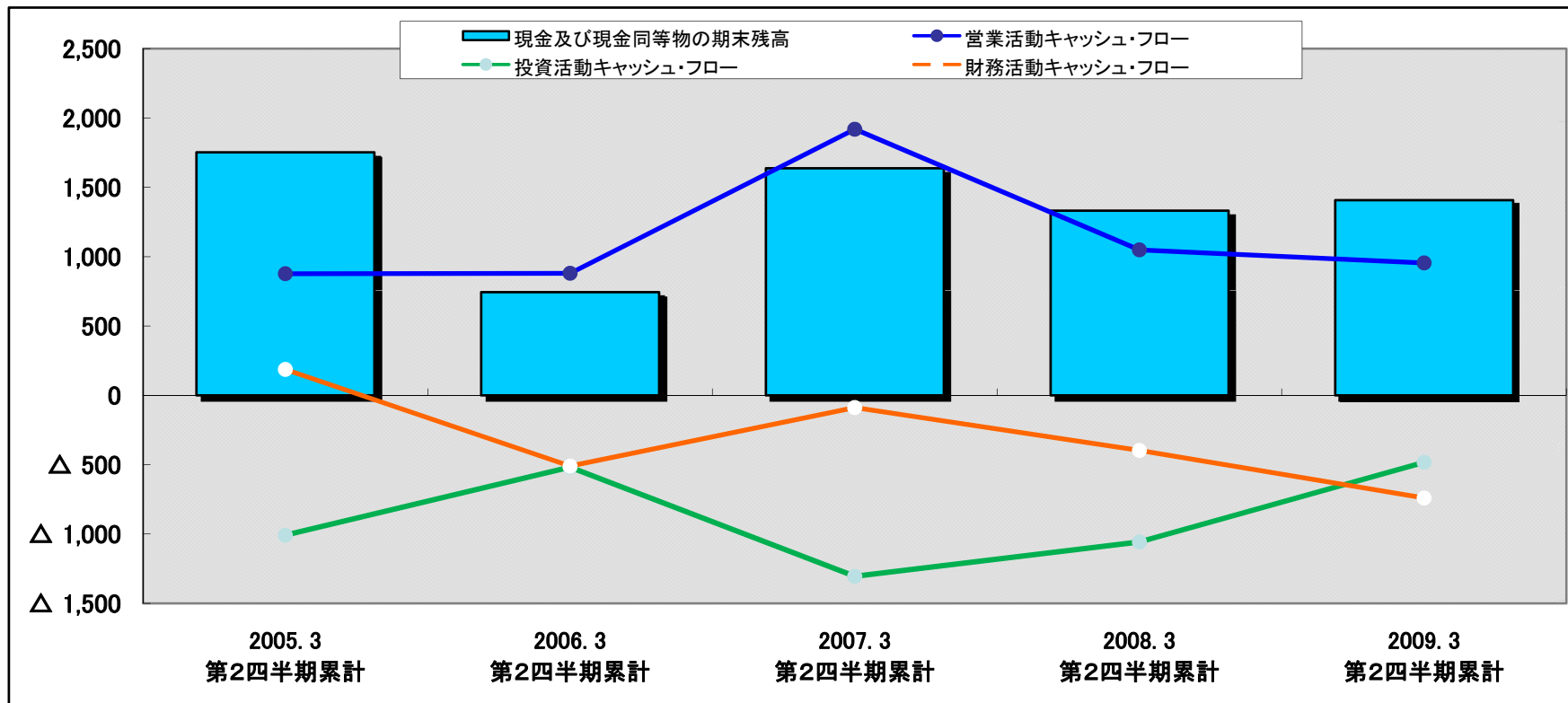
	2007.3 第2四半期累計	2008.3 第2四半期累計	2009.3 第2四半期累計
連結売上高	11,640	13,036	12,903
海外売上高	5,452	6,210	5,977
海外比率	46.8%	47.6%	46.3%

	2007.3 第2四半期累計	2008.3 第2四半期累計	2009.3 第2四半期累計
日本	6,187	6,828	6,926
アジア	5,322	6,074	5,925
中南米	127	131	49
北米	3	1	1
その他	0	2	0

# ■ キャッシュ・フロー



百万円



	2007. 3 第2四半期累計	2008. 3 第2四半期累計	2009. 3 第2四半期累計	前期比	2007. 3期末	2008. 3期末
営業活動キャッシュ・フロー	1,919	1,049	955	△94	3,576	3,047
投資活動キャッシュ・フロー	△ 1,305	△ 1,057	△ 483	574	△ 2,029	△ 1,897
財務活動キャッシュ・フロー	△ 88	△ 397	△ 740	△ 343	△ 994	△ 1,119
現金及び現金同等物の期末残高	1,638	1,332	1,408	76	1,715	1,722

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は、前連結会計年度末に比べ3億1千4百万円減少し、当第2四半期連結会計期間末には14億8百万円となりました。

当第2四半期連結会計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

➤ 営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動の結果得られた資金は9億5千5百万円(前年同期比8.9%減)となりました。これは税金等調整前四半期純利益4億6百万円及び減価償却費8億9百万円等による資金の増加によるものであります。

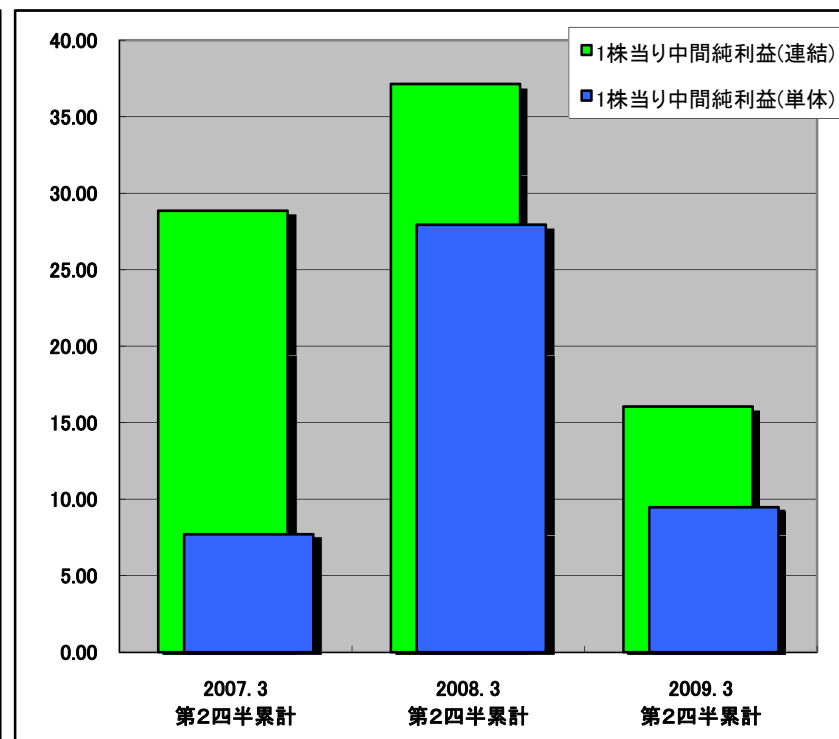
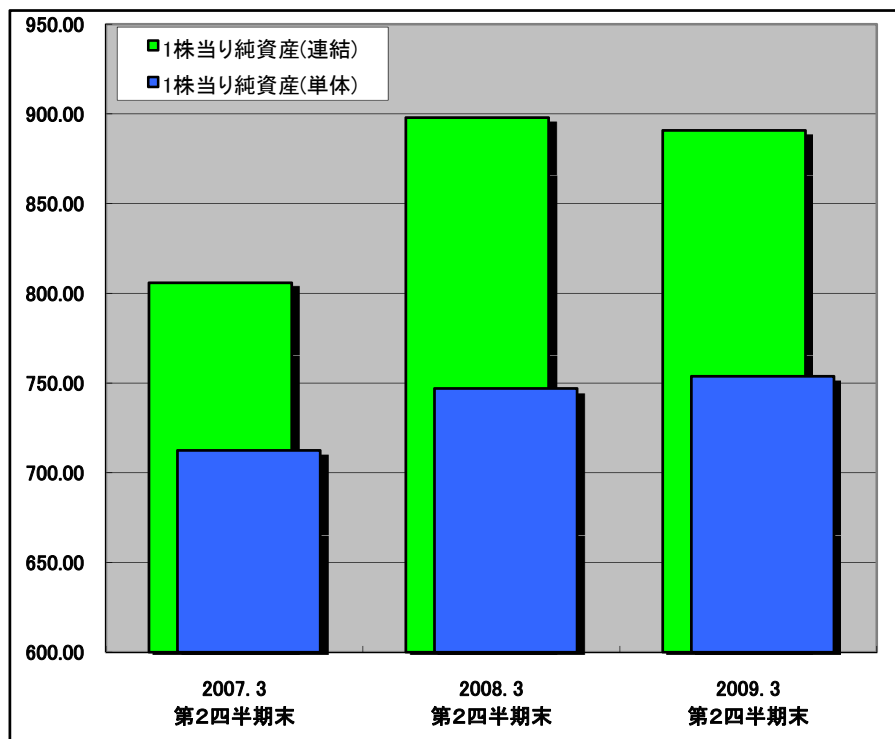
➤ 投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動の結果使用した資金は4億8千3百万円(同54.3%減)となりました。これは主に有形固定資産の取得によるものであります。

➤ 財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動の結果使用した資金は7億4千万円(同86.0%増)となりました。これは主に長期借入金の純減少額4億4千8百万円及び配当金の支払1億3千8百万円によるものであります。

## ■ 1株当り指数



円

	2007. 3 第2四半期累計	2008. 3 第2四半期累計	2009. 3 第2四半期累計	2007. 3期末	2008. 3期末
1株当り純資産(連結)	805.93	898.03	890.91	853.01	900.98
1株当り純資産(個別)	712.50	747.06	753.85	729.00	756.59
1株当り当期純利益(連結)	28.86	37.15	16.06	65.42	70.78
1株当り当期純利益(個別)	7.71	27.95	9.48	31.05	48.95

## ○配当予想の修正について

当社は、株主に対する利益還元を経営の最重要政策と位置づけており、将来の事業展開と経営基盤強化のために必要な内部留保を確保しつつ、安定した配当の継続を重視し、業績に裏付けられた成果の配分を行うことを基本方針としております。しかしながら、第2四半期連結累計期間の計画が未達となり、通期での達成も困難となりましたので平成20年10月24日発表の業績予想の修正に伴い、配当予想も下記の通り修正させていただきます。

(基準日)	1株当たり配当金		
	第2四半期末	期末	年間
前回発表予想	9円00銭	9円00銭	18円00銭
今回発表予想	6円00銭	6円00銭	12円00銭
(ご参考) 前期実績 (平成20年3月期)	9円00銭	9円00銭	18円00銭

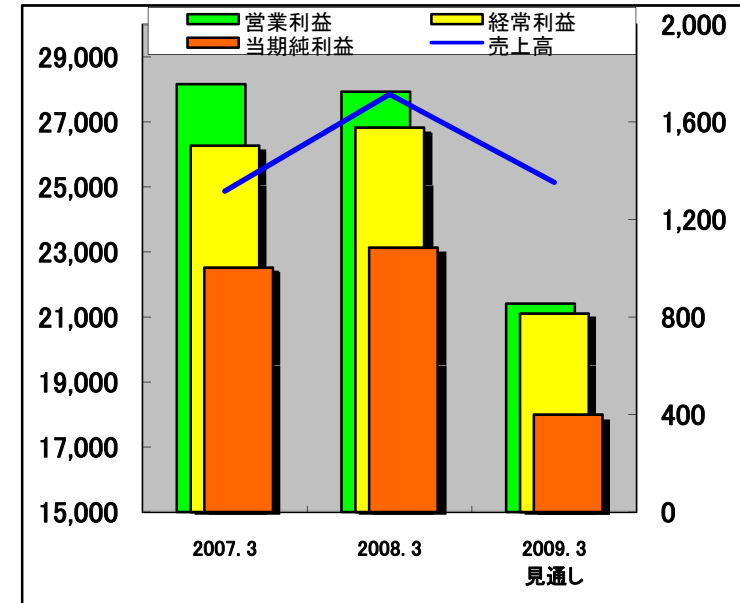
通期の見通し

## ■ 通期業績予想

### ● 連結

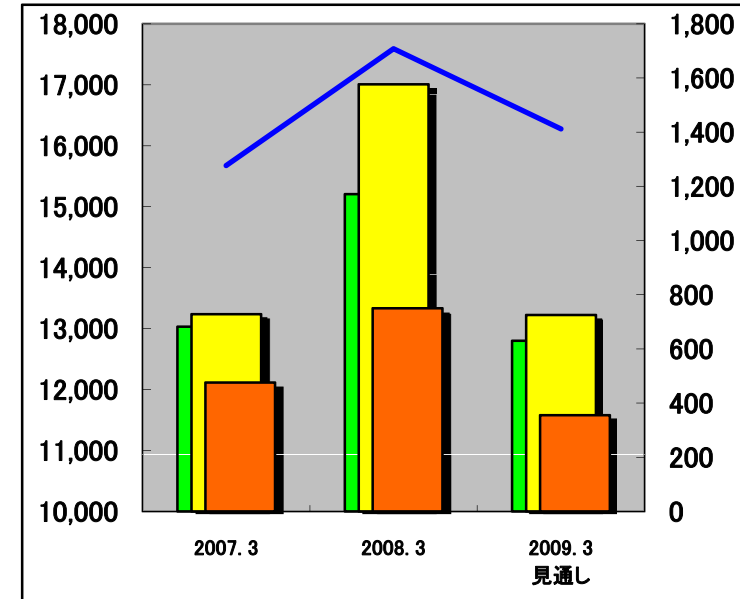
百万円

	2007. 3期末	2008. 3期末	2009. 3期末 見通し	前期比
売上高	24,874	27,851	25,144	9.7%減
営業利益	1,755	1,724	855	50.4%減
営業利益率	7.1%	6.2%	3.4%	2.8P減
経常利益	1,503	1,577	814	48.4%減
経常利益率	6.0%	5.7%	3.2%	2.5P減
当期純利益	1,003	1,085	400	63.1%減
当期純利益率	4.0%	3.9%	1.6%	2.3P減



### ● 単体

	2007. 3期末	2008. 3期末	2009. 3期末 見通し	前期比
売上高	15,674	17,592	16,276	7.5%減
営業利益	682	1,171	630	46.2%減
営業利益率	4.4%	6.7%	3.9%	2.8P減
経常利益	728	1,164	725	37.7%減
経常利益率	4.7%	6.6%	4.5%	2.1P減
当期純利益	476	750	355	4.5%減
当期純利益率	3.0%	4.3%	2.2%	2.1P減



第3四半期以降の見通しにつきましては、世界的な金融不安による景気後退懸念や円高の進行に伴う輸出の減少等による需要の減退、また原材料価格の大幅な変動が予想されます。

当社の主要販売先である電子部品市場におきましても、今後も世界的な景気後退局面に際してこれまでのような拡大は見込まれず、コスト競争の激化も伴い利益の確保においても厳しさを増すものと見込まれます。

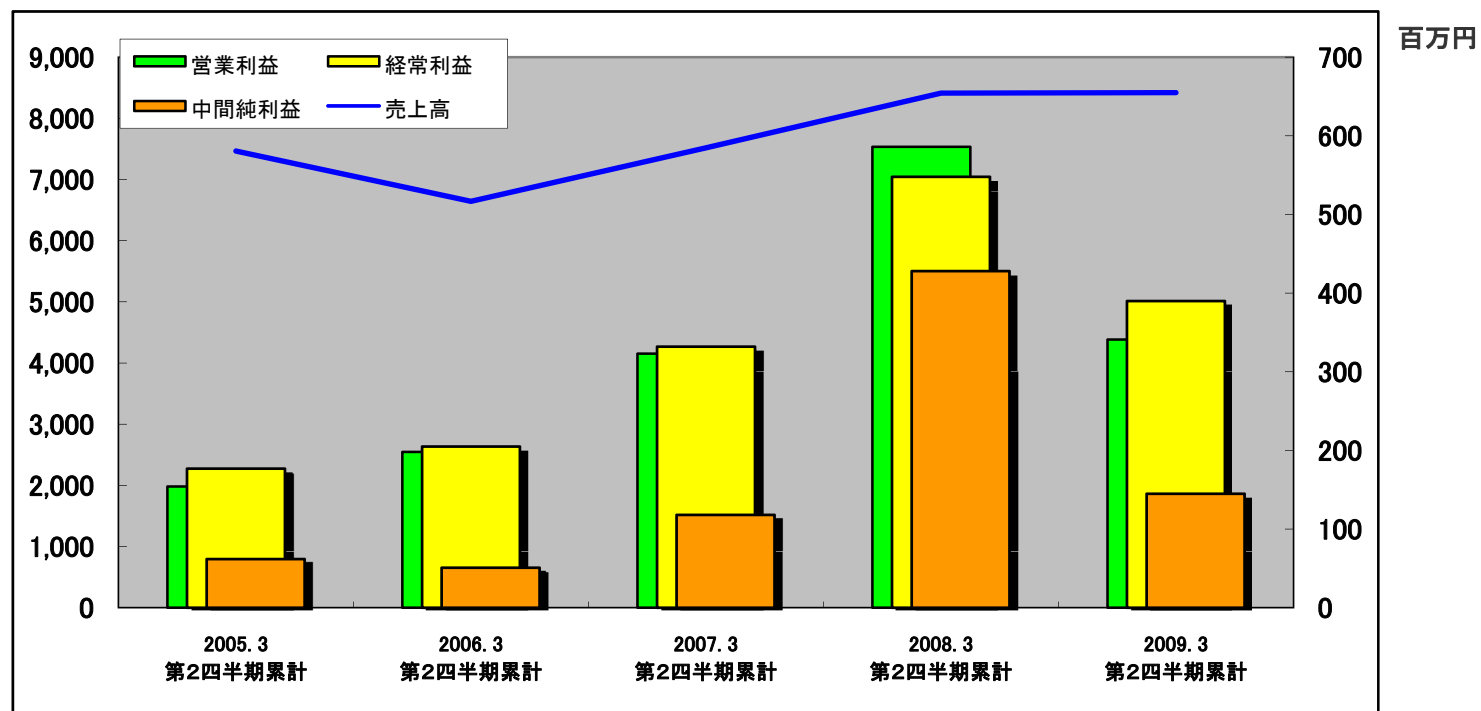
非常に厳しい経営環境下ではありますが、更なる生産性の向上及び製造原価の低減に努め利益の確保を優先しつつ事業運営を行う所存であります。また、品質管理に置きましてもこれまで以上に高い社内基準を設け、顧客満足度の向上に向けて全従業員が一丸となり取り組んで参ります。

なお、通期の見通しにつきましては、売上高は251億4千4百万円(前連結会計年度比9.7%減)、営業利益は8億5千5百万円(同50.4%減)、経常利益は8億1千4百万円(同48.4%減)、当期純利益は4億円(同63.2%減)を見込んでおります。



補足資料

## ■単体の業績推移



	2007. 3 第2四半期累計	2008. 3 第2四半期累計	2009. 3 第2四半期累計	前期比	2007. 3期末	2008. 3期末
売上高	7,519	8,412	8,421	0.1%増	15,674	17,592
営業利益	323	586	341	41.8%減	682	1,171
営業利益率	4.3%	7.0%	4.0%	3.0P減	4.4%	6.7%
経常利益	332	548	390	28.8%減	728	1,164
経常利益率	4.4%	6.5%	4.6%	1.9P減	4.7%	6.6%
当期純利益	118	428	145	66.1%減	476	750
当期純利益率	1.6%	5.1%	1.7%	3.4P減	3.0%	4.3%



### 中期経営方針

経営品質の向上と  
新たな価値の創造

#### 2008年度 経営重点項目

- ・ 内部統制システムの確立
- ・ 高付加価値製品の拡販
- ・ 顧客満足度の向上

当社グループは、今後益々グローバル化が進展し不確実性が増していく経営環境下において、力強く成長し続ける企業グループを目指し、2008年度より2010年度の3年間にわたる新たな中期経営方針を策定いたしました。本方針のメインテーマとして『**経営品質の向上と新たな価値の創造**』を掲げ、経営機能の強化を始めとする経営の高度化・深化を追求すると同時に、技術で生きる企業として、イノベーションを通じて新しい価値を創造し、次の時代を担う事業基盤を築き上げて参る所存であります。



### ①内部統制システムの確立

コンプライアンスを遵守し、透明性と倫理性の高い強い経営基盤を持つ企業グループを目指して参ります。また、CSR(企業の社会的責任)を常に意識した経営を心掛け、社会から信頼される企業となるべく行動して参ります。



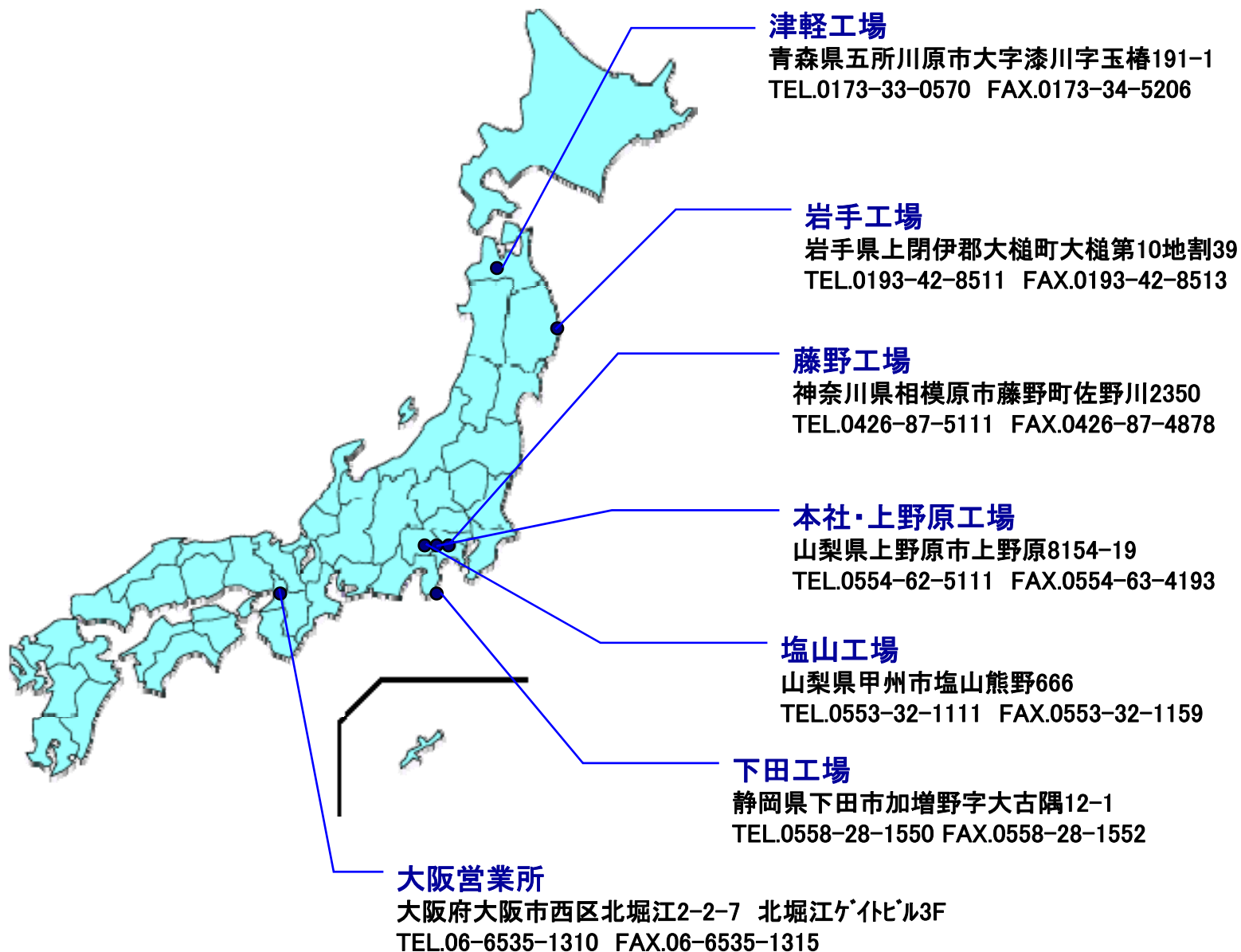
### ②高付加価値製品の拡販

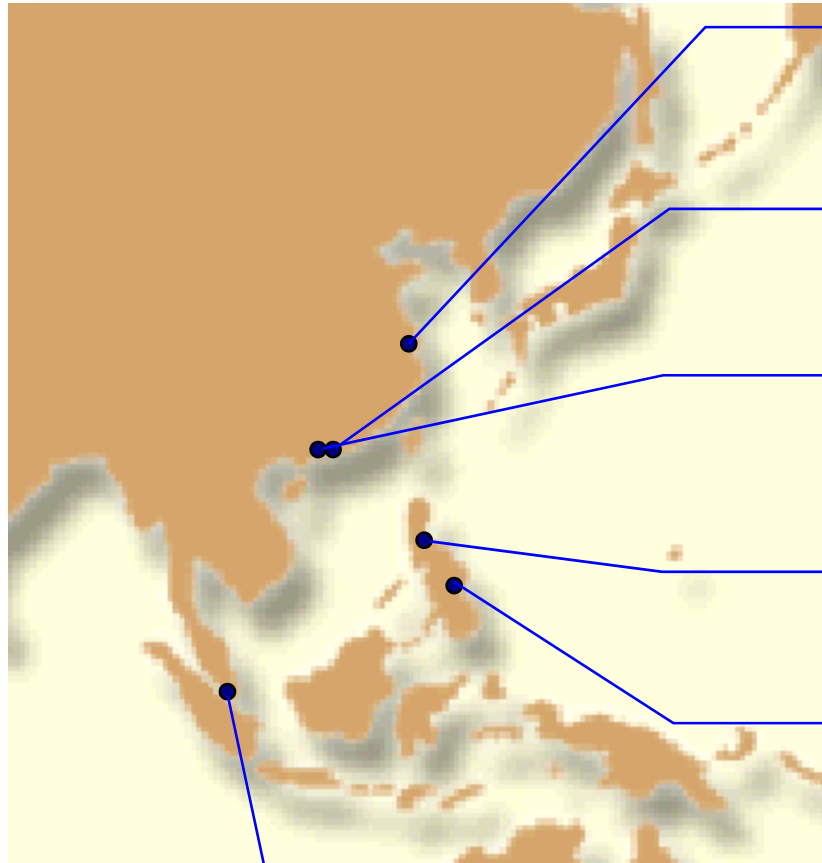
従来の当社グループの強みである複合加工(プレス加工～樹脂成型加工)への対応のみならず、2008年度からは津軽工場において鍍金工程も量産対応できる体制が整い、一つのアイテムに対してより付加価値の高い製品の供給が出来るようになりました。今後、顧客に対して樹脂工程及び鍍金工程を含めた高付加価値製品の拡販を重点的に進めて参ります。

### ③顧客満足度の向上

顧客から高い評価と信頼を勝ち取り、長期にわたるパートナーシップを築く為に、品質保証体制の強化とより高いレベルでの品質管理の徹底を図って参ります。このような品質向上への不断の取り組みを通じて、顧客満足度の高い製品・サービスを提供し続けて参ります。







**ENOMOTO WUXI Co.,Ltd.**

江蘇省無錫市無錫國家高新技術產業開發區96號-C  
TEL.+86-510-5345222 FAX.+86-510-5344008

**ENOMOTO HONG KONG Co.,Ltd**

香港九龍梳士巴利道3號星光行1805室  
TEL.+852-2199-7848 FAX.+852-2199-7918

**ZHONGSHAN ENOMOTO Co.,Ltd.**

廣東省中山市火炬開發區逸仙工業區  
TEL.+86-760-8533-5111 FAX.+86-760-8533-5113

**ENOMOTO PHILIPPINE MANUFACTURING Inc.**

PEZA-Gateway Business Park Javalera Gen.Cavite Philippine.  
TEL.+63-46-433-0263 FAX.+63-46-433-0264

**ENOMOTO PHILIPPINE MANUFACTURING Inc.  
CEBU OPERATIONS**

Cebu Light Industrial Park, Special Economic Zone, Washington  
Road, Basak, Lapu-Lapu City, Cebu, Philippines 6015  
TEL.+63-32-341-2223 FAX.+63-32-341-2228

**ENOMOTO PRECISION ENGINEERING(S)Pte.Ltd.**

30Loyang Drive,Singapore 508945  
TEL.+65-6542-4542 FAX.+65-6542-2484

## 注意事項

事業の展望、業績予想等の将来の動向にかかる記載につきましては、歴史的事実ではないため、不確定な要素を含んでおります。

現在入手可能な情報に基づいて作成したものであり、実際の業績は、今後の様々な要因により予想と異なる結果となる可能性があることをご了承願います。

ENOMOTO Co.,Ltd.